みんなの文芸

俳句　ことぶき俳句会

戦争を知らない少年花時計　稲田　文江
ラズベリー摘む林道の途絶えたる　大山みどり
新盆や従兄弟につきぬ思いあり　長谷川アキ
ばなな剥く戦後七十年の記事の上　福原　仁子
盂蘭盆会父の二倍を生かされて　山村　幹雄
ひっそりと茱萸あかくなる敗戦忌　高橋　悦子

川柳　浦幌川柳会

糸車今度は夢をつむぐ夜　加藤　未貴
会合に出席出来て楽しかり　橋本　葉子
おえらいさん金の色した尾がちらり　大山　研
物忘れつける薬の無い八十路　山村　幹雄
七転び不器用な儘の自分史と　阿部　麗紅
物忘れ増えてく中老い進む　星　愛子

川柳　上浦幌句の会

草花に大地は差別なしと云う　髙橋　幹雄
隣人と朝の挨拶立ち話
老いの身で生き甲斐楽しく砂金掘り　笹島カヨ子
黄金の麦の穂波にコンバイン
砂金掘りかけらも採れず水ながめ　河村みよ子
佛婦会お花見遊行友と笑
灼熱にアジサイブルーに涼求め　芳川　乙美
花めぐりいそいそと行く炎天下
終戦の思い出語る父の影
どきどきや砂金掘りする蝉時雨　加藤　明敏

短歌　心友愛会

青い海一度怒れば泥の山
家も人をも共に連れさる　堀井あやの

老いて行く日々静けさに心なき
デイサービスの食事楽しみ　小澤　つや

会の人ねこの作品真剣に
針目が見えぬ影で支えて　小川　房子

夏日の気温が上がる毎日に
親切にされ心より感謝　前川　静江

お盆待つ孫に浴衣を縫い上げて
笑顔で夕涼み楽しみに待つ　浅野　京子

犬の散歩いつもの道を歩きます
仲間に出会い挨拶交わす　山岸　明美

満かいの思いで残り老木は
切られた後も心に浮かぶ　長屋美代子

人の世は闇夜を照らす月さえも
雲には勝てず千変万化　佐藤　成子

おだやかに朝霧流れ山間に
夏の日差しが照り尽くす中　星　愛子

編集後記

■終戦から70年。戦争を経験した世代が高齢化し、当時のことを話せる方が少なくなっています。

■昭和20年7月の北海道空襲については、強い使命感を持った先人が詳細な調査記録を残してくださいましたが、浦幌町の被害については、不明な点が多く残されていました。

■1人が犠牲となった厚内防空監視哨。ここで働いていた少年たちの一人、坂井英さん（当時16歳）が、空襲について人前で話すようになったのは80歳を超えてから。目の前で同僚が撃たれたという坂井さんの証言は重く、辛いものでした。「これからの子供は直接体験を聞くことができなくなる。私が実際に見たことを語り継いでほしい」。そう話していた坂井さんも今年3月、天国へ旅立たれました。その想いを継承するのは私たちの責務だと思います。

■9月27日に浦幌最大のイベント「みのりまつり」が開催されます。詳しくは、今月号の裏面をご覧ください。（大）

■掲載された写真は、差し上げますので（本人または家族）、お気軽にご連絡ください。